



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」

Ver.2-029号 (通巻 260号)

「2019年同志社大学の入学式祝辞」

(同志社総長八田英二氏・同志社大学長松岡敬氏)



**同志社総長 八田英二 2019年度入学式祝辞**

校祖新島襄は明治23年1月23日、神奈川県大磯の地で病のため天国に召されました。46歳の、それこそ全速で駆け抜けるような短い人生でした。亡くなる2日前、早朝午前5時、10カ条の遺言を口述し、門弟の徳富蘇峰に筆記させています。

そのひとつには「同志社ニ於てハ個儻不羈なる書生ヲ圧迫せず務めて其の本性ニ従ひ之ヲ順導し以て天下の人物ヲ養成す可き事」と書かれています。新島が愛してやまなかったのは個儻不羈の学生ですが、逆に嫌ったものは「わが校の門をくぐりたる者は、政治家になるもよし、宗教家になるもよし、実業家になるもよし、教育家になるもよし、文学者になるもよし。かつ少々角あるも可。奇骨あるも可。ただかの優柔不断にして安逸をむさぼり、いやしくも姑息の計をなすがごとき軟骨漢には決してならぬこと。これ予の切に望み、ひとえに願うところなり」としています。

新島の理想とする人物育成を教育事業の根幹とする同志社大学は、ここ京田辺キャンパスのデイビス記念館で2019年度入学式を厳かに挙げています。

本日から晴れて同志社大学生となられた新入生の皆さんに同志社総長として心からの祝福を贈ります。ご入学おめでとうございます。真理の探究という知的欲求と情熱を胸に、皆さんは昼夜を問わず勉学に勤しんでこられました。皆さんの努力に深く敬意を表します。

また、式典に臨まれている、ご父母、ご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。長年の間、手塩に掛けて育まれてこられたお子様の晴れ姿を目の当たりにされ、感慨も一入かと存じます。これからは学問的にも人格的にも見違えるほどの成長が見込まれます。

歴史と伝統を誇る同志社大学に新入生を迎えるこの入学式は、教職員にとりましても大きな感動を覚える式典です。一点の曇りもない皆さんの輝くような眼差しを浴びるとき、前途有為な若者を、建学の精神に基づき教育するという崇高な使命に携わる喜びとともに、果たすべき責任の重さに改めて身の引き締まる思いをしています。

本学の前身は明治 8 年に新島襄が創立した同志社英学校です。本年で 144 年を迎えています。新島は同志社創立にあたり、「自ら立ち、自ら治むるの人民の育成」を同志社教育の目的に据えました。そして、その基盤をキリスト教主義に求めました。

明治 18 年の同志社創立 10 周年記念演説で彼は「我は才力なく学力なく先導者となるに足らず、然れども我は只だ我日本を愛す、道を愛す、兄姉を愛す、諸君よ我を諸君は先生先生といわるるを悲しむ、然れども我は価なし、只だ神の意に従うのみ、神意ならば何事をも為さんと欲す、我は只だ日本を愛して事を為す人と同心なるのみ、同じく神意を奉体する者は是一つ也」と述べ、同志社教育の基本がキリスト教にあることを改めて確認しています。

本学を他の大学に対して際立たせているのは、このようなキリスト教主義に立脚した人物教育に対する強い信念です。新島の教育事業に対する熱い思いは、「良心之全身ニ充満シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」と刻まれた良心碑に込められています。同志社教育が良心教育と呼ばれている所以です。知識の修得だけでなく、その知識を実生活やそれぞれの人生に、いかに活用するかの道德原理がなければ、個人の、ひいては一国の健全な発展など望むべくもありません。新島はこの事実を看破し、京都の地に私立学校を開いたのです。

いままで皆さんは、肉眼で物事を捉え、理解し、次の行動の指針としてこられたことでしょう。これからの4年間、皆さんは喩えれば3つの鏡を手にするることになります。そして、3つの鏡をどうぞ細心の注意を払いつつも、存分に使いこなしていただきたいものです。その鏡とは顕微鏡、望遠鏡そして姿見です。勉学はいうに及ばず、読書、友人との交わり、教師との触れ合い、課外活動などにより、学問的にも人間的にも、皆さんの視野は広がっていくことでしょう。社会現象にせよ自然現象にせよ、あまりにも微小で、或いは、はるか彼方で見えなかったもの、過去のもの、或いは未来のものも手に取るように見えてくるはずで、あたかも顕微鏡や望遠鏡という強力な武器を人類が手にし、科学が発展したのと同じです。常に好奇心をもち、さまざまな視点や角度から対象を冷静に分析し、その結果を貪欲に吸収し続けてください。しかし、時には自分自身の外面や内面を3番目の鏡、姿見で冷静に観察するように心掛けてください。同志社大学で教育を受けているという自覚と誇りを胸に、鏡の曇りを防いでください。

現在は過去の延長線上にあることは確かです。しかし、将来を過去から現在への延長線上に求めるよりも、むしろ将来を設定し、そこに到る道筋を現在から描いてください。同志社はその名のとおり、若者の「志」を重視する教育組織です。

皆さんのこれからの4年間が、知的好奇心に溢れ、新たな出会いに満ちたものであるように、そして神様の恵みが豊かにあるように祈念して私の祝辞といたします。

ご入学おめでとうございます。

出典：学校法人同志社 ホームページ。 転載許可を得て、同志社ファンを増やす会の責任でコピーをしています。

\* \* \* \* \*

## 同志社大学松岡学長 2019年度入学式式辞

本日、同志社大学は躍動感溢れる京田辺キャンパスで2019年度の入学式典を挙げております。ここデイヴィス記念館に集われた新入生の皆さん一人一人に同志社大学長として心からの祝福をお贈りします。

真理の探究という強い欲求と情熱を胸に、皆さんは昼夜を問わず勉学に勤しんでこられました。そして、これまでに流された汗と涙が見事に実を結びました。皆さんお一人お一人の努力に深く敬意を表します。また、式典に臨まれているご子弟の姿を目にされて、保護者の皆様もお慶びのことと存じます。ご入学を心からお祝い申し上げます。

この壇上で、一点の曇りもない、輝くような新入生の皆さんの眼差しを浴びるとき、教職員一同、同志社教育に寄せられた強い期待を感じるとともに、これから果たすべき責任の重さに改めて身が引き締まる思いです。

皆さんは高度な学術知識の伝達と創造を期待し、この同志社の門をくぐられました。優れた教授陣と素晴らしい教育環境が皆さんの期待に十分応えるものと、大学長として確信しています。しかし大学の果たすべき社会的責務はそれだけではありません。

今後、第4次産業革命といわれるAIやIoT、ビッグデータなどの科学技術が進展し、産業構造の変革や人々のライフスタイルなどの大きな変貌が予想されています。またグローバル化の波や情報化のスピードが非常に速く、10年後の姿を描くことが難しい、複雑かつ不確実な未来社会がそこにあります。

最高学府たる大学は、高度な専門知識の教授とともに豊かな人間性の涵養という使命を負っています。すなわち、学術技芸の伝達とともに、その知識をどのように実社会や実生活で活用するか、という教養溢れる人物の養成も、大学に課せられた使命です。

これから皆さんは、それぞれの専門分野における学術研究はもとより、課外活動やその他諸活動を通して同志社人にふさわしい知性と品格を身に付けていかなければなりません。そして将来社会に出てからも、最新の技術に踊らされるのではなく、しっかりと人間らしい知恵と倫理観をもって生きることができるよう、本学でしっかりと学んでいただきたいと思っております。

さて、創立者・新島襄の手によって設立された同志社大学はその創立から現在144年経過しており、あと6年経てば150周年を迎えます。本学ではその150周年を迎える2025年に向けて、新島の志を受け継ぎながらも、現代社会の諸課題に対応する新たな大学の形を示す中期ビジョンである「同志社大学ビジョン2025」を策定し、教育改革に取り組んでいます。

このビジョンの中で、重要な項目として掲げているテーマが「学びの形の新展開」です。現在、様々な教育プログラムを展開していますが、その中でこの2019年度からは「新島塾」という新たなプログラムが始動します。

「新島塾」では、先ほどもお話したような複雑かつ不確実な未来を切り開くことができる、知性と品格を有したリーダーを養成することを目的としています。

特に、大学での学びの手法である「書物を読む」ということを強く意識し、課題解決に向けた「答え」、つまり「解」は常に一つではないということを知ることや、文系、理系といった枠組みを超えた総合知を獲得することなどを目指しています。さらに、同志社大学のリソースを活用し、社会においてリーダーとして活躍されている方から直接学ぶことができる機会などを提供しているのも大きな特徴です。

他方、グローバル教育においても新たな展開を行っています。

本学はドイツに「同志社大学EUキャンパス」を開設し、この2019年度から現地での新たな教育プログラムの提供を開始しました。今後の社会において、人種や言語、宗教、思想、信条などが異なる人々と共生していくことが非常に重要です。それにはやはり海外で実際に生活し、そこで暮らす人々と触れ合う経験が非常に大切なのです。

本学では多くの国が、国家を超えた共同事業を展開しているEUに注目し、そこにキャンパスを置いて、新たな知見を獲得しながら、グローバル教育の推進を図っていきたいと考えています。

本日は2つの事例を紹介しましたが、他にも本学には学生の知的好奇心を大いに満たすことができる、多種多様な教育プログラムを用意しています。

大学での学びには専門知識や技能、外国語能力など多くのことを学ぶことが求められます。しかし、その中で私が特に皆さんに大切にしていきたいと感じることは「学問に向かう積極的な姿勢」です。ぜひ大学で「真理」を追い続けていきたいと思えます。

最後に、我々は「社員たるものハ生徒ヲ鄭重ニ取扱ふ可き事」という新島の遺言を今も変わらず心に置き、教職員一同“ALL DOSHISHA”の精神で皆さんを全力でサポートします。

大志を抱き、情熱溢れる学生を迎え入れることで、同志社大学がより一層発展し、躍動することを我々一同確信しています。ぜひ共に成長しましょう。

皆さんの入学を心から祝福し、今後の実り多き学生生活を祈りつつ、大学長

としての式辞といたします。      ご入学おめでとうございます。

出典：同志社大学ホームページ。      転載許可を得て、同志社ファンを増やす会の責任でコピーをしています。